

生成AI 活用ガイドライン

関西大学 中等部・高等部 生成AI 活用ガイドライン

1. はじめに

このガイドラインは、文部科学省が出した「小・中・高校での生成AIの使い方に関する考え方（令和6年12月26日 Ver.2.0）」をふまえて、みなさんが授業や家庭学習で生成AIをうまく使うためのルールや考え方をまとめたものです。

生成AIは、文章や画像をつくったり、擬似的に会話をしたりすることができる便利な技術です。しかし、間違った情報を出したり（ハルシネーション）、個人の情報が漏洩したり、偏った考えを出してしまうなどの注意点もあります。だからこそ、生成AIを使うときには、情報をうのみにせず、自分で考える力（批判的思考）や、マナーやルール（情報モラル）をしっかり持つことが大切です。また、生成AIに頼りすぎず、自分で学ぼうとする姿勢も大事です。

本校は、大学および社会で活躍するための資質・能力の向上を見据え、生徒自身の学びの発展ならびに生徒たちの情報活用能力、AIリテラシーの向上を目指します。

なお、本ガイドラインは今後、変更される可能性があります。

2. 基本方針

2-1 目的と対象

目的：学習の質を高め、学問的誠実性（Academic Integrity）を守りながら、安全かつ責任ある生成AI活用を推進する。

対象：中等部・高等部に在籍する生徒、教職員、本校で指導に関わる外部指導者

2-2 生成AIサービスの条件

教育活動の中で学校として利用を認める生成AIは、原則として次の条件を満たすものとする。

- (a) 利用者が入力した情報が、サービス側で再学習されない、または学習範囲が明確に管理されていること
- (b) 通信が暗号化されるなど、コンピュータと生成AIの間のセキュリティが確保されていること
- (c) 学習に用いられているデータの透明性が確保され、著作権等に配慮した設計・運用がなされていること

2-3 活用指針

教職員

- (a) 目的の提示：活用の目的や育てたい力を明確にする
- (b) 利用の可否：生成AIの利用の可否を明確にする
- (c) 具体例の提示：プロンプトの良い例と悪い例を提示する
- (d) リスクの提示：誤情報や偏りがあること等のリスクを提示する

生徒

- (a) 目的の理解：学びの質を高めるために使用する
- (b) 利用の可否：授業や課題で使用するときは担当の先生の指示に従う
- (c) 学問的誠実性：思考・判断・表現は自らの責任で行う
- (d) 安全：個人情報などは入力しない
- (e) 透明性：課題・発表・論文等の成果物では、生成AIの利用の有無を明示し、必要があれば生成AI利用過程を記録・提出する
- (f) 法令順守：著作権、肖像権、利用規約などのルールを守る
- (g) 偏りの理解：生成AIの出力には偏りや誤りがありうるため、複数の情報源で検証する

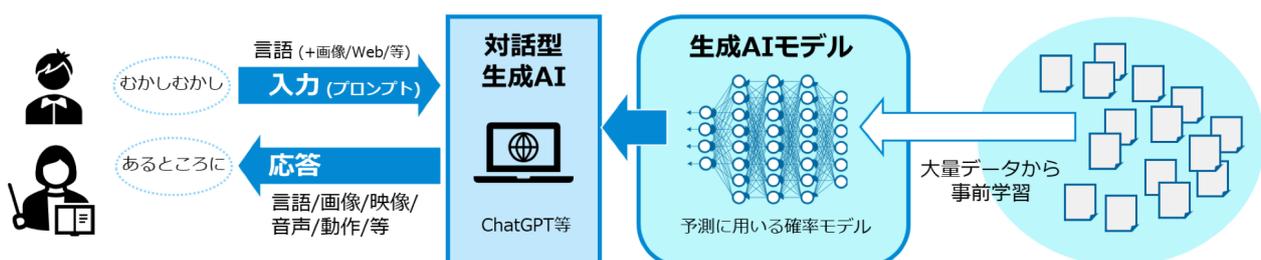
3. 生成AIの特性

生成AIは、大量の文章・画像・プログラムなどを学習したデータから、文章、画像、プログラム等を生成することができるAIの総称です。

図1 生成AIとは



図2 対話型生成AIについて



生成AIの利活用に関する長所と短所

	長所	短所
生成AI	<ul style="list-style-type: none">- 膨大なデータを短時間で処理することができる- 個人の習熟度に合わせて学習をサポートできる- 先行研究や様々な言語の資料の読み解きを支援できる	<ul style="list-style-type: none">- 偏った情報や誤った情報が出力されるリスクがある- 個人情報や機密情報が漏洩するリスクがある- 知的財産権を侵害するリスクがある
生徒	<ul style="list-style-type: none">- 自分が作成した成果物と生成AIが作成したものを比較できる- 生成AIとの対話を通じて発想を広げることができる- 生成AIとの対話を通じて自分に足りない視点を補い、考えを深めることができる	<ul style="list-style-type: none">- 生成AIに思考をまかせることで、自律的な思考力の低下につながるリスクがある- 過剰依存になるリスクがある- 人格があると誤認するリスクがある

4. 身につけてほしい「生成AIリテラシー」

- **生成AIの仕組みと限界の理解**
生成物は膨大なデータから統計的に出力されたもので、誤り・偏り・古い情報が混ざり得ることを理解して活用できる
- **生成物に対する批判的な判断**
生成物をうのみにせず、根拠・出典・前提を確認し、必要に応じて複数情報で検証できる
- **適切な利用目的・場面の判断**
目的（草案／要約／比較／壁打ち等）に照らして、使う場面・使わない場面を選ぶことができる
- **プロンプトの工夫と設計**
条件（役割・対象・制約・形式・評価基準）を明確にし、試行錯誤して質問を改善できる
- **生成物の編集・再構成**
生成物をそのまま提出せず、自分の言葉で編集し、再構成できる
- **権利や個人情報などへの配慮と判断**
著作権、引用ルール、個人情報・機密情報の扱いを理解し、入力・共有の可否を判断できる
- **誠実に生成AIを利活用する態度**
利用の可否を守り、必要に応じて生成AI利用やその過程を明示し、成果物の責任は自分が負う姿勢をもつことができる
- **人と生成AIの分担を考える態度**
判断・価値づけ・責任は人、補助（整理・案出し・表現改善等）は生成AI、と役割分担して使うことができる
- **より良い使い方を考えて利用する態度**
目的達成度や副作用（誤情報・依存・公平性）を振り返り、使い方を改善し続ける姿勢を持つことができる
- **生成AIと社会との関係を考える態度**
生成物に含まれる差別や偏見などを理解し、倫理観を持って活用できる

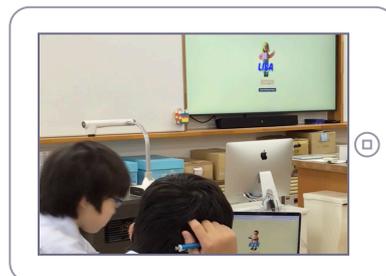
5. 学習場面ごとの具体例（適切／要注意／不適切）

5-1 適切な使い方の例

- ・ 自分が作成した成果物と生成AIが作成したものを比較する
- ・ 生成AIとの対話を通じて自分に足りない視点を補い、考えを深める
- ・ 自分の主張に対して反論や弱点を出してもらい、議論を鍛える
- ・ 先行研究・外国語資料の読み解きを支援させる
- ・ レポートや発表資料で、生成AIをどの部分で利用したかを脚注や末尾に記載する

5-2 要注意な使い方の例

- ・ テーマや仮説、研究方法のアイデア出しに使う（過剰依存）
- ・ アンケート項目や尺度の作成（誘導質問や偏り）
- ・ 画像の生成（著作権や差別表現）
- ・ 引用・参考文献での利用（誤情報）



5-3 不適切な使い方の例

- ・ レポート・作文を生成AIに書かせて、そのまま提出する
- ・ 与えられる課題に対して生成AIを「思考の代行者」として用いる
- ・ 生成AIがつくったデータやグラフを出典を示さず「事実」として報告する
- ・ 本人の許可なく画像やスライド、その他著作物を生成AIに利用する
- ・ 実名や住所など、個人が特定できる情報を生成AIに利用する

5-4 各教科での活用例

教科	活用例（本校も含め、全国学校で活用されている例）
国語	自分が書いた作文について、生成AIに言い換え案や接続詞改善、段落構成、不足している視点等を提示させて、自らの力で改善する。
社会	「昼に人が増える地域」、「夜に人が増える地域」を統計を元に見つけ、産業・交通・学校立地と結びつけて説明する際に、データ読解の観点のサポートや、説明文の改善を生成AIを使って行う。
数学	自分で考えて解いた数学の問題について、生成AIに別の解答の導き出し方を提案させて比較し、最適な導き出し方を考える。
理科	実験結果の考察について、不足している視点を提示させて、自らの力で改善する。学習目的に応じて、取得したデータを生成AIで可視化し、考察する。
保健体育	長距離走の実技試験に向けて、自分が作成したトレーニング計画について、生成AIの作成するトレーニング計画と比較して、必要があれば改善する。
外国語（英語）	具体的な場面を設定し、生成AIの音声会話機能を用いて、英会話・スピーキングの練習をする。また、自分が書いた英文を生成AIに添削させ、解説を読んだ上で、追加の質問を投げかけることで理解を深める。
技術・家庭科	日本のエネルギーミックスについて、自分の考えを明確にした後に、生成AIとディベートを行い、賛成、反対の両方の立場の視点を持って考える。
情報	自らの力で目的とするプログラムを作成し、エラー文の読み解きを生成AIにサポートしてもらい、自らの力でプログラムを改善する

あなたはどのような大人になりたいですか？

(Digital Well-being)

自分がどのような力を身につけ、どのような大人になりたいですか。毎日の学校・家庭生活をより良くするのも、後悔してしまうのも、誰のせいでもなくあなた自身の毎日の積み重ねで決まります。生成AIの仕組みや長所短所を理解し、より良い学びの手段として生成AIを活用しましょう。

生成AI活用に向けた事前チェック

- 「答えがほしい」ではなく「理解したい／深めたい」を目的として活用する
- 生成物を「材料」として学び、自分の力に取り込み、生成AIがなくても説明できるように理解する
- 生成AIをどのように、どの部分で活用したか説明することができるように活用の過程を記録する
- 生成AIに聞く前に、自分の考えや答えを準備して活用する
- 生成物は間違えたり、偏ったりする前提で事実確認をした上で活用する
- 生成AIの提案に流されず、目的に合わないものは排除する
- 生成物をそのまま提出して“自分の成果”にしない
- 年齢制限など利用規約やルール、法律に反した活用をしない
- 個人情報や著作物、肖像権の侵害になるものは利用しない
- 一度発信した情報は取り消すことができないことを理解した上で活用する
- 生成AIの利活用において、責任は自分が持つ

ご家庭にお願いしたいこと

機能制限

アプリなどのインストール制限を行い、保護者の許可のもとインストールしてください。

スクリーンタイム

利用時間などを定期的を確認してください。

アプリについて

年齢制限を確認し生徒の年齢にあったアプリを利用してください。

ツール名	最低年齢	保護者の同意
ChatGPT (OpenAI)	13歳以上	13歳～18歳は必要
Gemini (Google)	13歳以上	13歳～18歳は必要
Gemini for Education (Google)	なし	必要
Microsoft Copilot	13歳以上	必要



Kansai University Junior & Senior High School Guidelines for Generative Artificial Intelligence

関西大学中等部高等部

<http://www.kansai-u.ac.jp/junior/>

<https://www.kansai-u.ac.jp/senior/>

住所 : 〒569-1098 大阪府高槻市白梅町7番1号

TEL : 072-684-4326 (中等部代表)

072-684-4327 (高等部代表)

FAX : 072-684-4347

